

現代のグローバル化社会とアメリカ合衆国

東京国際大学教授 高橋 宏

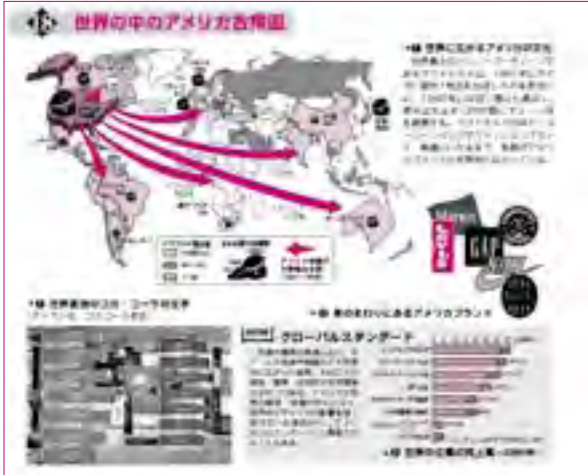
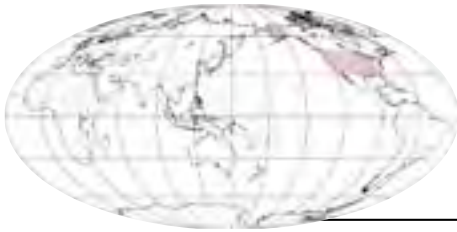


図1 『図説地理資料 世界の諸地域NOW 2009』 p.142

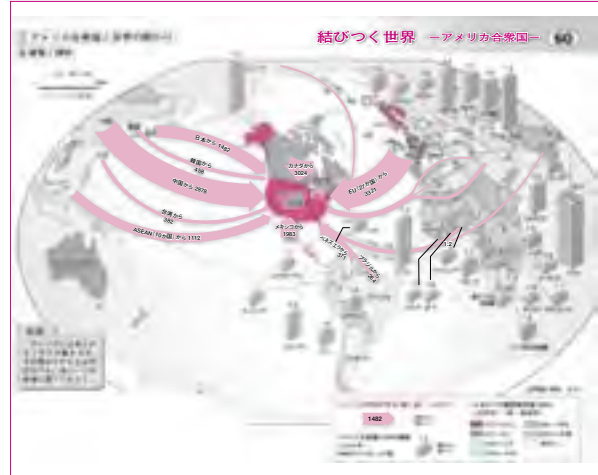


図2 『新詳高等地図 初訂版』 p.60

★はじめに

「現代のグローバル化社会」はアメリカ合衆国（以下、アメリカ）にとってどのような働きをするのか、またグローバル化の進展はアメリカにどのような影響をもたらすのであろうか。グローバル化という現象は、地球的な視点で見ると一つのものであるが、その現象の及ぶ地域や国が違えば、もつ意味が異なることになる。地域・国によって、経済的に豊かなところもあれば貧しいところもあり、また政治・社会・文化・宗教などの違いもあり、グローバル化の動きが、そうした様々な相違点に応じて異なった影響をもつことは容易に理解できる。

それでは、現在世界の中で圧倒的な影響力をもつアメリカにとって、グローバル化社会の進展は、どのような意味をもつものであろうか。この点について、以下にいくつかの角度から検討していきたい。

★1 グローバル化をどうとらえるか

まず明らかにすべきことは、「グローバル化社会」という現象を、どのように理解すべきかである。第一のポイントは、グローバル化の現象を広義にとらえると、グローバル化はたんに狭義の経済面だけでなく、政治・軍事、社会的な側面で、諸活動が国際的・地球的な広がりをもつこととなり、さらには文化の伝播などが国境を越えて進んでいくことと理解できる（アメリカの文化が世界に広がる事例については、『図説地理資料 世界の諸地域NOW 2009』 p.142 「図 世界の中のアメリカ合衆国」などを参照）。

第二に、グローバル化の影響を、いかに評価するかである。通常は、先に述べた諸活動や文化などの波及・伝播・影響は、その時々で世界的な影響力をもつ国から他の国へと向かうものと考えられる。そこで、グローバル化に関する評価は、その功罪につい

表1 グローバル化の評価

変化の推進力として積極的に評価	批判的な「反グローバリズム」の意見
(評価の例) 経済的には世界経済の成長と発展を可能とし、政治社会的には民主主義の価値と民主社会の拡大をもたらし、近代的価値の波及による人間の潜在的能力の発現を可能とする、など	(批判の例) 経済的に貧困を悪化させ格差を拡大し、世界的には覇権国家の支配をもたらし、国内的には特権階級による支配と国民の従属を固定化し、かえって一般民衆の人権を蹂躪する、など



て二つの正反対の視点に分かれる。つまり、表1にまとめたように、一方で「グローバル化は地球社会の発展と変革の推進力」と考える評価と、他方で「強者による弱者の支配と従属を強いる力の行使」ととらえる批判的意見である。

第三のポイントは、なぜ評価がこのように分かれるかである。その理由は、それぞれが現象の側面のみ、あるいは部分のみをみていて、全体をとらえていないことによる。

第四にあげるべきポイントは、現代世界のコンテキストでみると、グローバル化社会を推進している中心的な国家はアメリカであると認識されていることである。つまり、積極的に評価するにせよ批判的に判断するにせよ、アメリカの経済的支配力、政治的影響力・覇権、社会現象・文化事象などが、他の地域・国に向かって一方向的に波及しているという認識である。

最後のポイントとして、アメリカ以外の地域・国々は、そうしたグローバル化の影響を受けてアメリカ的な標準に統一され、世界は「アメリカ化する」と想定されているように考えられることである。

しかし、グローバル化の現象を正しくとらえるには、二項対立的な見方では的確な判断はできない。歴史的に振り返ると、ヘレニズム文化やローマ帝国の時代から、強大な覇権国家の影響が及んだ地域でも、それぞれの地域の独自の文化などが残り、支配的な国からの「普遍的な文化、政治、社会、経済などの影響」を受けつつも、各地域それぞれの文化などとの融合と新たな文化の発生などがもたらされ、より豊かな文化が花開くといったケースが多くみられることも想起すべきであろう。さらに、グローバル化に伴う諸現象の動きは、必ずしも一方向的なものとは限らず、双方向で進むことも多い。とくに、経済活動・社会現象・文化事象などは、相互の影響=相互交流という特徴をもっていると理解することが正しいであろう。

★ 2 グローバル化はどう進むか

次にここでは、以上のように「グローバル化」の現象を理解したうえで、経済面でのグローバル化を中心に論じていこう。なぜなら、経済活動の世界的な展開は、それに伴って社会・文化などの波及を地球的な規模で促進するものであり、政治的・軍事的な活動が諸外国で展開される理由の大きな部分も、経済活動の拡

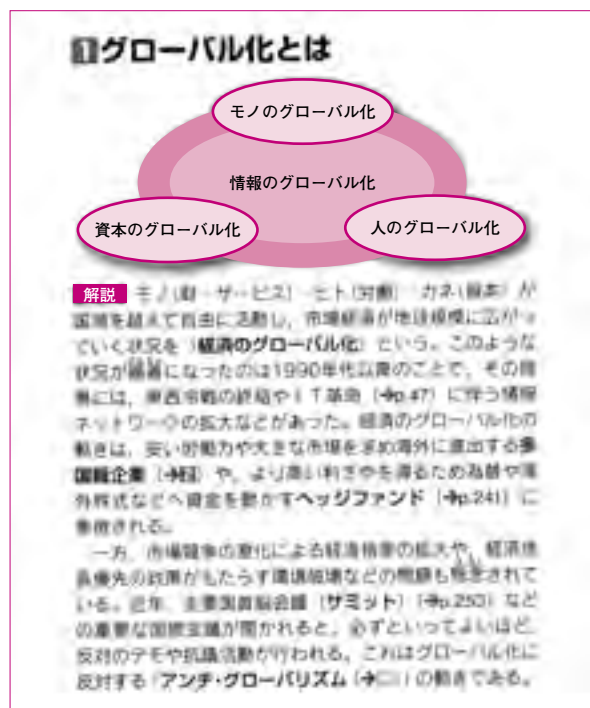


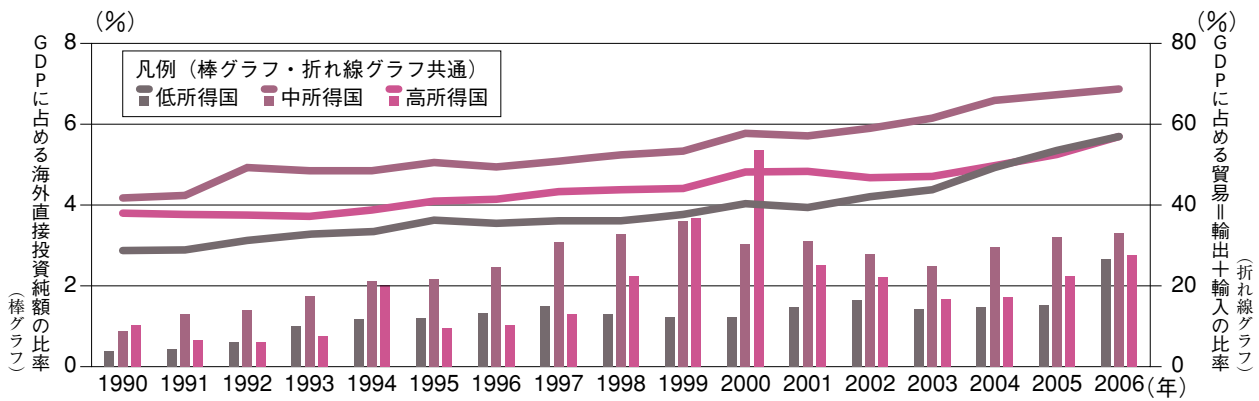
図3 「アクセス現代社会 2009」 p.245

大と密接に結び付いていると考えられるからである。

では、経済のグローバル化とは何か。その推進力は、財貨サービスの貿易、資本移動、経営者・技術者・労働者などの人的資源の交流、技術移転、経済組織・制度の移植などである。また、貿易・投資などの自由化を指向する制度形成や政策運営などが、こうした動きを加速する(グローバル化の実際の姿については、『アクセス現代社会 2009』p. 245「③グローバル化した世界」などを参照)。

これらの推進力が働いた結果、経済のグローバル化はどのような形をとって現れてくるのだろうか。一つには、GDPに占める貿易(輸出と輸入)の比率=貿易依存度が高まることである。また、海外直接投資、すなわち海外で直接に経済活動を行うために工場や営業拠点などに行われる投資額の大きさとGDPとを比較することである。実際、次の図4が示すように、世界各国に共通の傾向として、貿易依存度は1990年の30~40%前後から2006年の58~70%前後へと上昇しており、また直接投資額がGDPに占める比率も90年の1%程度から06年の3%弱へと高まりを見せている。

さらに、これらのマクロ的な数字の増大の他に、貿易・投資がもたらす産業構造の高度化と多様化、そして消費の高度化と多様化という「経済発展」も視野に入れる必要がある。そして、グローバル化に関する評価が二分される理由は、こうした経済発展をどのよう



★低所得国および中所得国の貿易額の増加速度は、2000年以降に高所得国の増加速度を上回っている。低所得国に向かう海外直接投資=FDIは2006年には急増した。

出典：World Development Indicators 2008, p. 323, Figure 6.1.a: Trade and international finance are leading globalization.

図4 グローバル化を主導する貿易と国際投資

に分析するかによるところがじつは大きいのである。なぜなら、経済発展は必然的に産業の新陳代謝を不可避のものとし、それによって利益を享受する人々と損失を被る人々との同時発生を伴うからである。

それに加えて、利益を受ける人々の多くが支配的な国に属し、損失を被る人々の多くが不利な影響を受ける国々に属しているようにみえる場合には、とくに問題を複雑化させる。実際に不利な影響に関する因果関係を詳しく調べると、貿易・投資のグローバルな展開それ自体が原因というよりも、国内の経済構造や社会・政治・経済などの諸関係に因るところが大きい場合の方が多くとしても、損失や不利化の原因をグローバル化に求めることになりがちである。

3 アメリカにとってグローバル化はどのような意味をもつか

さらに、ここでの要点は、次のような理解を行うことである。グローバル化の重要な推進力が貿易であるので、経済理論的には、各国は「比較優位」に基づいてそれぞれ得意な分野の生産に特化し、比較劣位に陥った産業を縮小させるか、合理的な政策を採用して比較劣位を挽回するようにすることが重要となる。こうした比較優位をもつ産業分野は、それぞれの国の生産要素の賦存状況により決定される。つまり、アメリカのように高度な資本と技術が相対的に豊富で、労働力が相対的に不足している国の場合には、比較優位産業は資本・技術集約産業であり、それらの生産に特化して、その生産物を輸出する、そして労働集約産業の国内生産を縮小し、代りにその製品を輸入することになる。アメリカは、経済発展を実現する過程で一貫してこのような比較優位構造の絶えざる変化と貿易内容

の転換を行ってきた。

その結果、比較劣位産業は縮小し、そこで働いていた労働者は他産業へと転換していった。経済理論的には、このような客観的な分析となるが、しかし、国際競争に敗れて廃業に追い込まれる企業主や失業の憂き目に遭う労働者の観点からすると、比較優位に基づく産業構造の転換という事実は、大きな災厄の原因と映じることになる。

さて、以上のような議論を行った後で、「アメリカにとってグローバル化はどのような意味をもつか」について論評を行おう。経済のグローバル化がアメリカにもたらすものは、必ずしも積極的に評価する立場の楽観的な効果ばかりでなく、かといって、批判者の唱えるようなアメリカの一人勝ち=他国を経済的に支配する一方的な手段ということでもない。貿易の真の意義を経済的に正しく理解すれば、それは「相互利益の実現」であり、貿易当事者は双方ともに利益を受ける。ただし、経済は生き物であり、常に成長・発展を続ける限り、構造変化を継続的に繰り返すものであり、その結果として、産業の構造変化・雇用の調整などを必ず伴うものであり、そこにこそ経済発展の真の意義があると理解できる。また、輸入の増大は、アメリカにとって、国内生産をしていてはコストが高くなる商品を海外から安価に輸入し、それによって消費者の利益を実現するものである。

しかし実際の政策決定になると、アメリカ国内におけるグローバル化の影響は不均一であり、アメリカ経済という利害の一致する一枚岩の存在があるのではないために、利害関係が複雑に分れる。むしろどの国であれ経済の実体は、利害の異なる集団の間の不均質な

集合体なのである。たとえば国際競争力をもつアメリカの産業の視点からは、その産業の商品の輸出を行うことが自らの利益ともなり、またアメリカ経済全体の利益ともなるとの立場から、自由貿易を推進し、グローバル化を促進するべしという議論が出てくる。しかし、輸入品からの競争に直面する産業では、たとえば海外の低賃金労働から国内の労働者を保護せよとか、あるいは自分たちの輸出が伸びない原因は海外の不公正な競争にあるといった議論が出てくる。このように、グローバル化を強力で推進すると考えられているアメリカでも、比較優位構造の変化に伴う「勝ち組と負け組」が存在する。

また海外投資を考えるならば、アメリカから海外に出て行く直接投資は、確かに国内の雇用機会などを奪う恐れがあるが、しかしたとえば自動車産業などに対して日本をはじめとする海外からの直接投資が行われ、技術移転と経営ノウハウの改善などが実現されることにより、アメリカ国内の自動車産業が一定の生産と雇用を確保できるという利点が生じる。そして、海外メーカーがアメリカで生産した自動車が輸出されることにより、アメリカの輸出の増大にも繋がる。

さらに視点を広げると、昨年以降のグローバル経済の大混乱に象徴されるように、金融の自由化・新たな金融商品の開発などにより国際的な金融活動の展開が国境を越えてなされることにより、貿易や直接投資といった実物経済の他にカネがカネを生む投機的な動きが増大する。一方でそうした金融活動から巨額の利益を生み出す小集団が登場する反面で、そうしたマネーのグローバル化の埒外にしながら、グローバル金融からの不利な影響を広範に被る人々が生み出されることにもなる。

ここで、より詳細な分析を述べることができないが、

理論的には貿易と直接投資が比較優位の変化に応じて適切に執り行われるならば、短期的な損失と調整努力の必要は生じるものの、中長期的には経済の発展に資するものと理解できる。しかし、経済社会構造をみると、そこで強い影響力をもつ支配的な集団がグローバル化からより大きな利益を獲得し、大多数の大衆が経済的に後れを取る事態も発生する。げんに、図5にみるようにアメリカでは1980年以降には高所得層と低所得層の不平等が拡大する傾向を見せている。

4 グローバル化にどのように対処するか

最後に、以上の議論から私たちが「グローバル化」に関して的確に判断し対処すべきことは何か。それは、まず全体像を正しくとらえること、次に理論的に考えること＝複雑な因果関係を分解して正しい分析を行い、グローバル化の真の姿をとらえること、そしてそうした理解に基づいて、自らの結論ととるべき態度を決めることである。

このように考えるならば、アメリカも世界経済の大きなうねりの中で1個のプレーヤーとして様々な利害を国内に抱えつつ国際分業に参加し、そこから利益を享受するとともに損失を被る国の一つであるとの理解が可能となる。経済以外の分野でも、現代の世界におけるグローバル化の動きは、アメリカによる政治的・軍事的覇権やアメリカ文化の浸透などのための手段であるといった短絡的な結論に飛びつくことでなく、社会現象・文化事象の相互交流の動きをもたらすものであり、その動きの中には伝統的社会から近代社会への転換を促す要素もあり、近代社会の共通価値である民主社会の実現・人間の基本的権利の保護・人間の安全保障といった新たな価値観の促進に繋がるといった大きな利点もあるということを理解することも重要であろう。

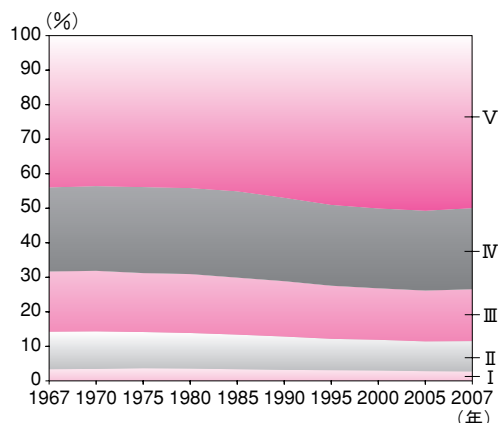


図5 アメリカの所得階層別に見た所得分配の不平等化

★全世界を所得の順に並べ20%ずつ五つのグループに分けた際の各階層の総所得を比率で示した。

- V：所得最上位層20%の所得比率
- IV：上から2番目の20%の所得比率
- III：中位層20%の所得比率
- II：下から2番目の20%の所得比率
- I：所得最下位層20%の所得比率

★所得最上位層20%の世帯の総所得が全所得の50%にせまらうとしているのに対し、最下位層20%の総所得は5%にも満たない状況が続いている。

出典：U.S. Census BureauのHP (<http://www.census.gov/hhes/www/income/histinc/h02AR.html>) より